

2009年5月8日

(2009年3月期)

2008年度 決算説明会

株式会社 山武



オートメーションって、ひとをシアワセにできるんだよ

目次

2008年度(2009年3月期)決算説明会

- | | | |
|----------|---|-------------|
| 1 | 2008年度(2009年3月期) 決算報告 | P. 3 |
| 2 | azbilグループ体質の抜本的強化と
2009年度(2010年3月期) 業績計画 | P.13 |
| 3 | 株主への利益還元 | P.20 |

本資料に記載されている当社の現在の計画、目標等過去の事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報を基とする合理的な判断に基づくもので、将来の業績を保証するものではありません。

実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果になることがあります。

* 数値は表示単位未満四捨五入しております

1 2008年度(2009年3月期)決算報告

2008年度 経営成績

- 第3四半期以降の急激な事業環境の悪化により、売上高は2,362億円と前年度比5.0%の減少となる。
- 減収を余儀なくされたものの、経費削減や利益体質の強化に取組み営業利益は178億円と、前年度比12.9%の減少に止める。

	2007年度 (2008/3期)		2008年度 (2009/3期)					
	通期実績(A)	通期実績(B)	前年比増減		期初計画(C) (2008.5.9)	期初計画比増減 (B)-(C)	修正計画(D) (2009.2.3)	修正計画比増減 (B)-(D)
			(B)-(A)	%				
連結 売上高	2,486 億円	2,362 億円	△ 124 億円	△ 5.0 %	2,530 億円	△ 168 億円	2,370 億円	△ 8 億円
営業利益	205 億円	178 億円	△ 27 億円	△ 12.9 %	211 億円	△ 33 億円	165 億円	13 億円
売上比%	8.2 %	7.6 %			8.3 %		7.0 %	
経常利益	204 億円	172 億円	△ 32 億円	△ 15.9 %	208 億円	△ 36 億円	160 億円	12 億円
当期利益	107 億円	95 億円	△ 12 億円	△ 11.1 %	122 億円	△ 27 億円	83 億円	12 億円

セグメント別 売上・営業利益

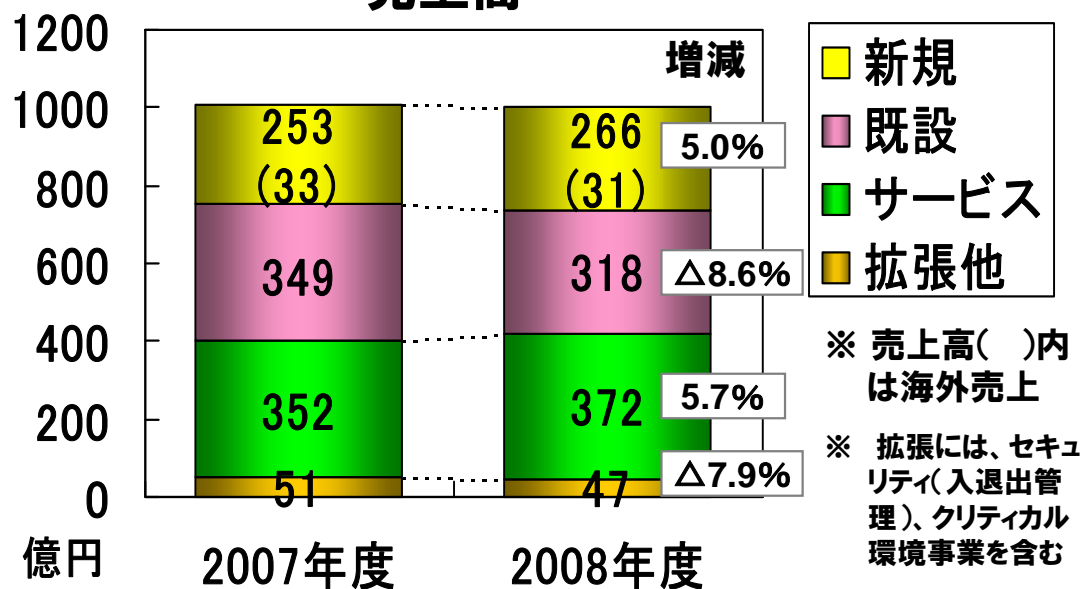
- 急激な景気悪化の中でもBA事業は底堅く推移。AA事業は産業界全体における設備投資の凍結・抑制の影響を強く受ける。

	2007年度 (2008/3期)	2008年度 (2009/3期)						
	通期実績(A)	通期実績(B)	前年比増減		期初計画(C) (2008.5.9)	期初計画比増減 (B)-(C)	修正計画(D) (2009.2.3)	修正計画比増減 (B)-(D)
			(B)-(A)	%				
BA 売上高	1,005 億円	1,004 億円	△ 1 億円	△ 0.1 %	1,030 億円	△ 26 億円	1,002 億円	2 億円
営業利益	118 億円	131 億円	13 億円	11.2 %	127 億円	4 億円	124 億円	7 億円
売上比%	11.7 %	13.0 %			12.3 %		12.4 %	
AA 売上高	1,054 億円	936 億円	△ 118 億円	△ 11.2 %	1,060 億円	△ 124 億円	943 億円	△ 7 億円
営業利益	89 億円	50 億円	△ 40 億円	△ 44.4 %	82 億円	△ 32 億円	43 億円	7 億円
売上比%	8.5 %	5.3 %			7.7 %		4.6 %	
LA 売上高	365 億円	359 億円	△ 5 億円	△ 1.5 %	377 億円	△ 18 億円	360 億円	△ 1 億円
営業利益	△ 3 億円	△ 2 億円	1 億円	-	1 億円	△ 2 億円	△ 2 億円	0 億円
売上比%	△ 0.8 %	△ 0.4 %			0.1 %		△ 0.4 %	
その他 売上高	84 億円	79 億円	△ 5 億円	△ 5.9 %	85 億円	△ 6 億円	80 億円	0 億円
営業利益	1 億円	△ 1 億円	△ 1 億円	-	1 億円	△ 1 億円	△ 1 億円	0 億円
売上比%	1.0 %	△ 0.7 %			1.1 %		△ 0.6 %	

■ BA事業は前年度並みの売上高1,004億円を確保。営業利益は、新規建物向け事業の利益改善等が奏功し、前年度比11.2%増の131億円達成となる。

	2007年度 (2008/3期)			2008年度 (2009/3期)			前年比増減	
	上期	下期	通期(A)	上期	下期	通期(B)	(B)-(A)	%
売上高	433 億円	572 億円	1,005 億円	419 億円	584 億円	1,004 億円	△ 1 億円	△ 0.1 %
営業利益	32 億円	86 億円	118 億円	33 億円	97 億円	131 億円	13 億円	11.2 %
売上比%	7.3 %	15.0 %	11.7 %	7.9 %	16.7 %	13.0 %		
受注	611 億円	410 億円	1,021 億円	635 億円	348 億円	983 億円	△ 39 億円	△ 3.8 %

売上高



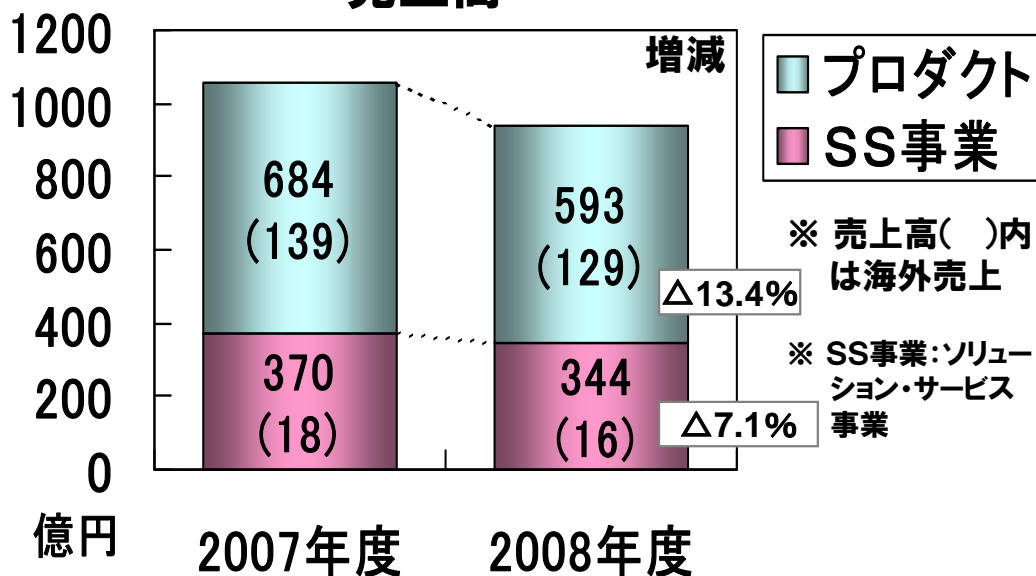
- 新規建物は、大規模な生産施設や商業建物再開発案件の完工もあり伸長。
- 既設建物は、環境負荷(CO₂)低減ニーズは底堅いものの、制度改定により前年度に案件が集中した反動等で減収。サービスは契約件数の増加を背景に着実に増収。
- 拡張に含まれるセキュリティ(入退出管理)事業は、前年度大型案件の反動があるが、需要自体は堅調に推移。

アドバンスオートメーション事業

■ 急激な設備投資の凍結・抑制の影響を受け、売上高は前年度比11.2%減の936億円。減収の影響は大きいものの業務構造の変革による体質強化、経費削減に努め営業利益は50億円、前年度比44.4%減にとどまる。

	2007年度 (2008/3期)			2008年度 (2009/3期)			前年比増減	
	上期	下期	通期(A)	上期	下期	通期(B)	(B)-(A)	%
売上高	495 億円	559 億円	1,054 億円	474 億円	463 億円	936 億円	△ 118 億円	△ 11.2 %
営業利益	41 億円	48 億円	89 億円	34 億円	16 億円	50 億円	△ 40 億円	△ 44.4 %
売上比%	8.3 %	8.6 %	8.5 %	7.2 %	3.4 %	5.3 %		
受注	528 億円	501 億円	1,029 億円	526 億円	399 億円	925 億円	△ 104 億円	△ 10.1 %

売上高



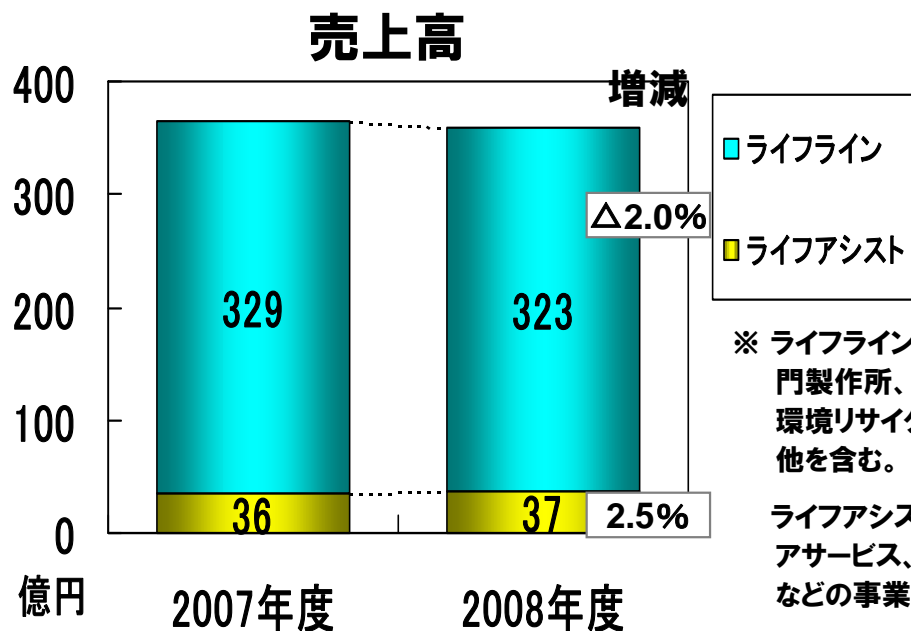
- ◆ 国内では、電子部品・半導体製造装置・工作機械・自動車関連業界での急激な設備投資減少に加え、化学、鉄鋼といった素材産業でも投資先送りが拡大し、プロダクト、ソリューションサービス両事業で減収。
- ◆ 海外では、円高の影響もあり、中国や一部のアジア地域を除き減収。

ライフオートメーション事業

- LA事業の売上高は前年度比微減(△1.5%)の359億円となるが、利益体質の強化が進み、のれん代償却負担が倍加※したものの営業損失は2億円と着実に改善。

※ 金門製作所完全子会社に伴うのれん代償却負担の増加。およそ年間13億円(前年度比6億円増)。

	2007年度 (2008/3期)			2008年度 (2009/3期)			前年比増減	
	上期	下期	通期(A)	上期	下期	通期(B)	(B)-(A)	%
売上高	185 億円	180 億円	365 億円	187 億円	173 億円	359 億円	△ 5 億円	△ 1.5 %
営業利益	△ 2 億円	△ 1 億円	△ 3 億円	△ 1 億円	△ 1 億円	△ 2 億円	1 億円	-
売上比%	△ 1.2 %	△ 0.4 %	△ 0.8 %	△ 0.5 %	△ 0.4 %	△ 0.4 %		
受注	190 億円	176 億円	366 億円	194 億円	165 億円	359 億円	△ 7 億円	△ 1.8 %



- ◆ ライフライン分野の中核となる金門製作所では、景気悪化の影響から都市ガス、LPガス両メータの需要回復が予想を下回り、レギュレーターなどの工場向けガス機器も減収となったが、完全子会社化の下での事業基盤整備・体質強化が着実に進む。
- ◆ LA事業を構成するケアサービスや住宅空調、その他環境関連の分野においても利益性が改善。

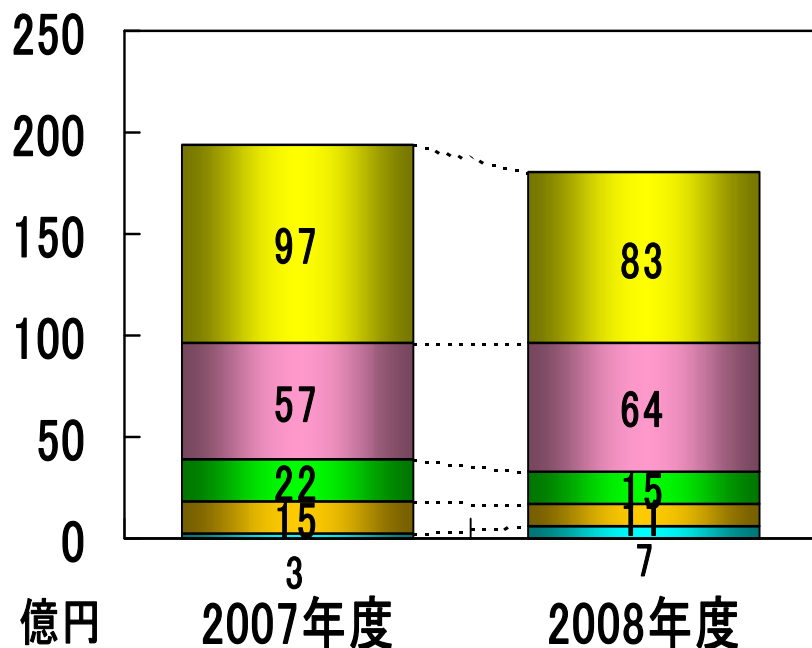
国際事業 (海外売上高)

- 中国や一部の国で事業が伸長するも、世界経済の急速な冷え込み、円高の影響を受け全体としては前年度比6.9%減の売上高180億円にとどまる。

	2007年度 (2008/3期)			2008年度 (2009/3期)			前年比増減	
	上期	下期	通期(A)	上期	下期	通期(B)	(B)-(A)	%
売上高	94 億円	100 億円	194 億円	91 億円	90 億円	180 億円	△ 13 億円	△ 6.9 %

売上高

※ 国際事業(海外売上高)は内数です。



- ◆ 中国では着実に事業が伸長し、円高の影響をカバーして増収。
- ◆ 比較的堅調であったアジア地域は国ごとにバラつきはあるが、地域全体としては減収。
- ◆ 北米・欧州は、現地経済の悪化と円高の影響で減収。

※ 上記国際事業(海外売上高)は、現地法人と直接輸出の売上のみを集計しており、間接輸出は含んでおりません。

連結財政状況

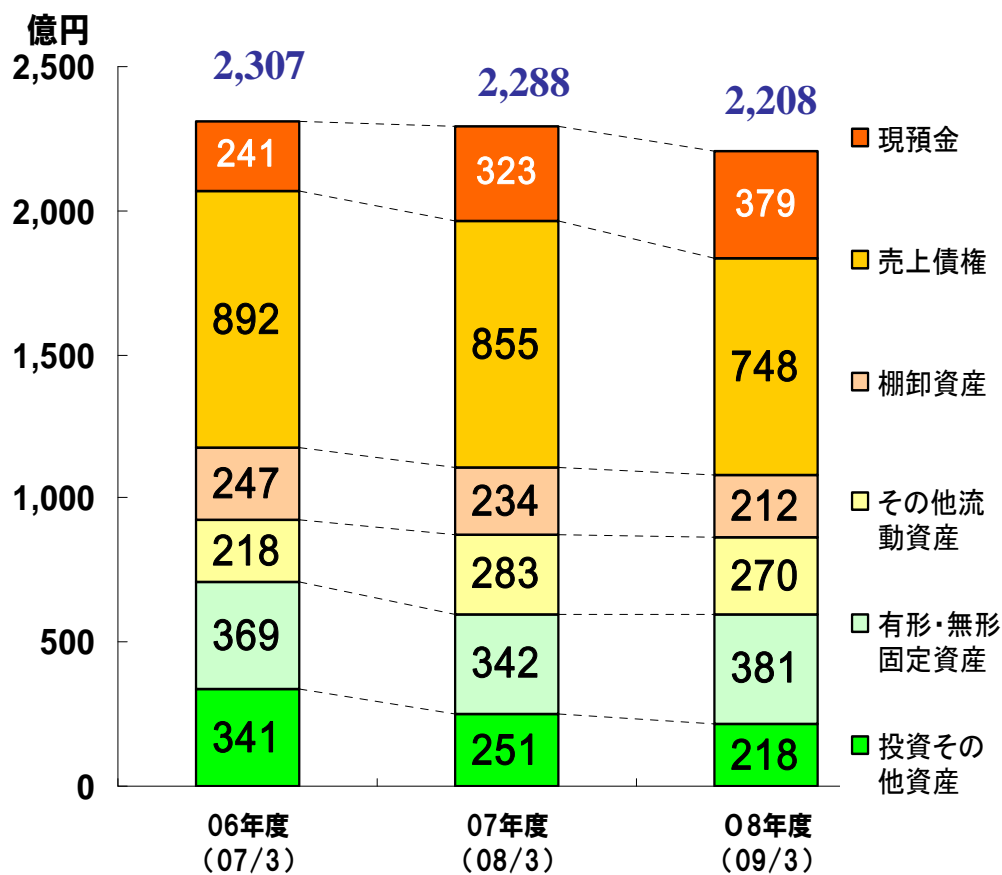
- 総資産は、売上債権や棚卸資産の減少などにより、前連結会計年度末比80億円減少(△3.5%)。
- 金門製作所完全子会社化に伴う新株発行により、資本剰余金が46億円増加。
- 自己株式20億円(1百万株)を取得。

(単位:億円)

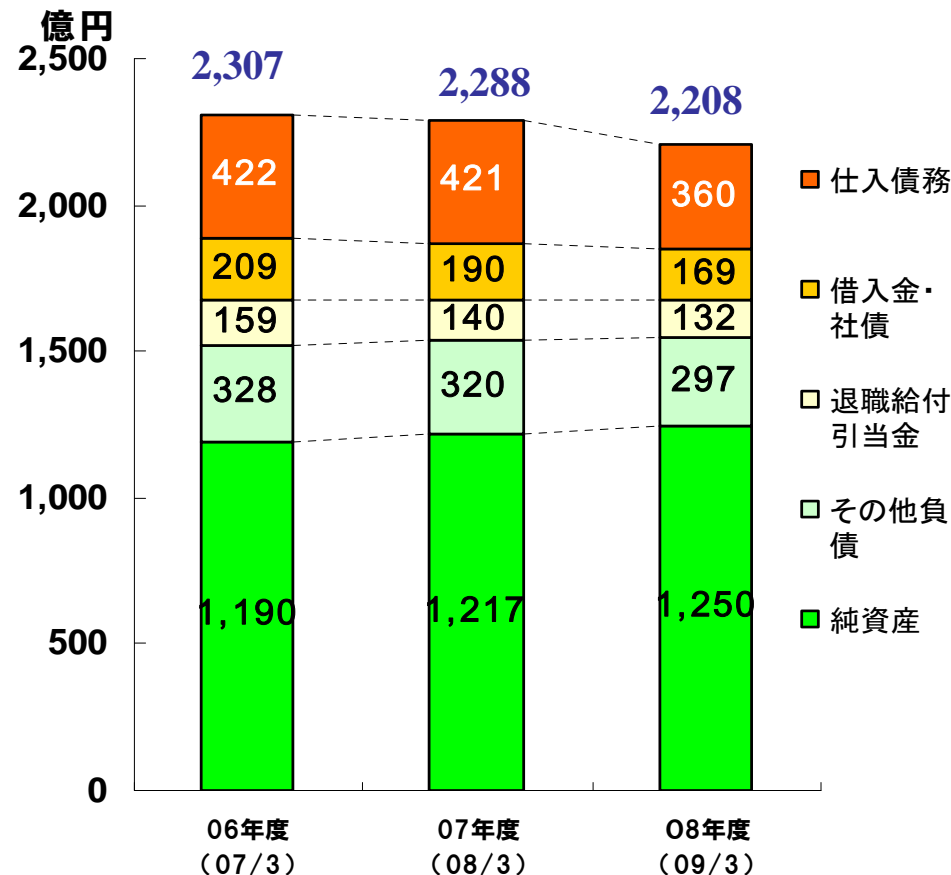
	A 07年度 (08/3)	B 08年度 (09/3)	B-A 増減		A 07年度 (08/3)	B 08年度 (09/3)	B-A 増減
流動資産	1,696	1,610	△ 86	流動負債	871	787	△ 83
現預金	323	379	55	仕入債務	421	360	△ 62
売上債権	855	748	△ 107	短期借入金/社債	144	147	2
棚卸資産	234	212	△ 22	その他	305	281	△ 24
その他	283	270	△ 13				
固定資産	593	599	6	固定負債	201	171	△ 29
有形固定資産	293	298	5	長期借入金/社債	45	22	△ 23
無形固定資産	49	83	34	退職給付引当金	140	132	△ 8
投資その他の資産	251	218	△ 33	その他	15	16	1
				負債合計	1,071	959	△ 113
				株主資本	1,162	1,238	76
				- 資本金	105	105	-
				- 資本剰余金	126	172	46
				- 利益剰余金	937	987	50
				- 自己株式	△ 7	△ 26	△ 20
				評価・換算差額等	42	△ 2	△ 44
				- その他有価証券評価差額金	39	9	△ 30
				- 繰延ヘッジ損益	0	-	△ 0
				- 為替換算調整勘定	3	△ 11	△ 14
				少数株主持分	14	14	1
				純資産合計	1,217	1,250	33
資産合計	2,288	2,208	△ 80	負債及び純資産合計	2,288	2,208	△ 80

連結財政状況の推移

資産推移

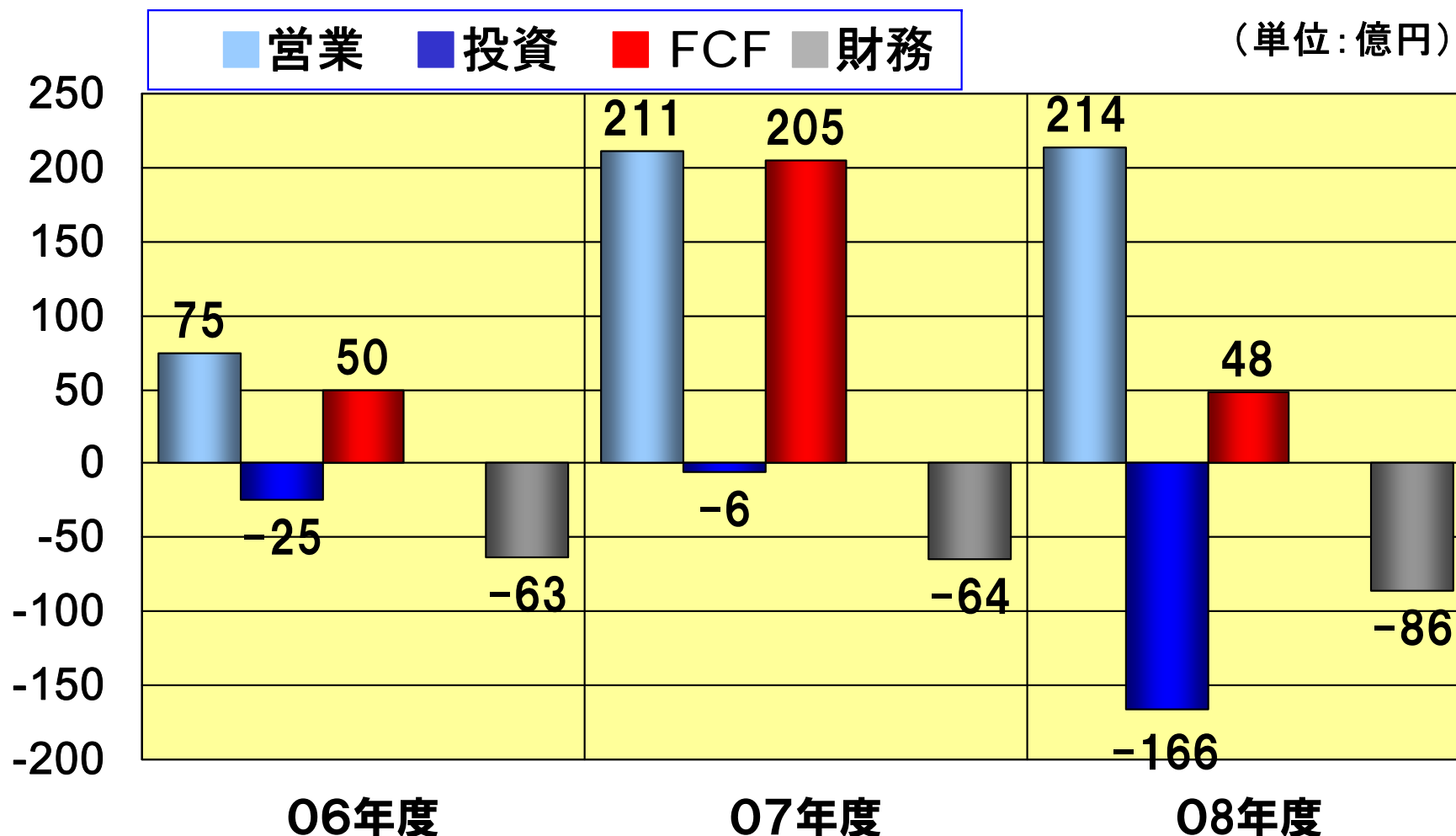


負債・資本推移



連結キャッシュフローサマリー

- 営業キャッシュフローは、減益ながら売掛債権・棚卸資産の減少などにより高水準を維持。
- 先端技術実験棟の建設や手元資金の短期有価証券としての運用などにより、投資キャッシュフローはマイナスとなるが、48億円のフリーキャッシュフローを計上。
- 財務キャッシュフローは、下期に実施した自己株式の取得(20億円)と配当増により、前年度比21億円の支出拡大となる。



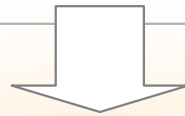
2

azbilグループ体質の抜本的強化と 2009年度(2010年3月期)業績計画

景気変動と3つの基幹事業

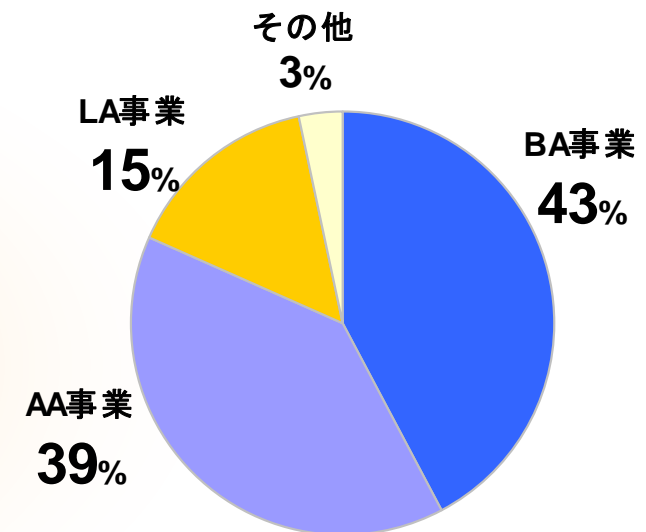
azbilグループ 事業ポートフォリオの特徴

- BA、AA、LA・・・3つの基幹事業
- オートメーションに係わる技術・製品・サービスをコアに異なる市場で事業を展開
- それぞれに異なる景気サイクル下にある事業運営



市場特性の異なる3つの基幹事業の組合せからなるポートフォリオを活かし、さらに「人を中心としたオートメーション」事業の開拓を進めることで、azbilグループの持続的な発展を目指す。

- **ビルディングオートメーション事業 (BA)**
国内最大の実績を活かし、設計、施工からメンテナンスサービスにいたる建物のライフサイクルにあわせた事業を展開
- **アドバンスオートメーション事業 (AA)**
石油、化学といった素材産業から半導体・自動車などの加工組立てラインまで分散化された幅広い市場で、現場に密着した課題解決型事業を展開
- **ライフオートメーション事業 (LA)**
オートメーションをライフライン、生活の場、介護・健康支援の分野で展開



2008年度セグメント別売上構成比率

● 2007年度から2009年度を「**基盤を確たるものにする期**」と位置付け、**変革活動の着実に実行**に取組む。

● グループワイドでの営業拠点の移転・統合

- ▶ 全国azbilグループ内のシナジー向上とリソース集中による業務効率向上
- ▶ 拠点集約による経費効率向上

● 金門製作所を含めた生産機能再配置

- ▶ 京都工場での電磁流量計生産
- ▶ 金門製作所生産拠点集約
- ▶ 一気通貫体制構築

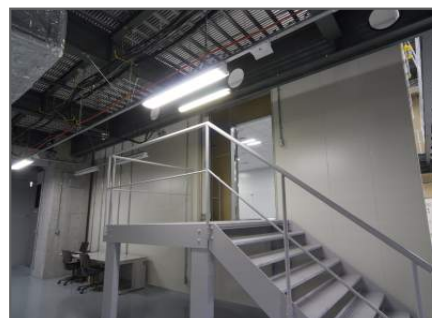
京都工場・アジア最大規模
の実流校正装置



● 顧客価値の高い商品の開発・早期市場投入

- ▶ 藤沢テクノセンターへの開発・エンジニアリング機能統合
- ▶ 先端技術実験棟に実験設備を集約し研究効率を向上

環境制御実験施設



温熱環境実験施設

実流試験装置

(様々な流体の実流試験を行う開発用試験装置)



- 2009年度の一層厳しい事業環境下において、変革活動を一段と強化し、さらなる体質改善の好機につなげる。

経営資源の最適配分を進め付加価値の向上に努める。

(300名規模でのローテーションを実施。内、約200名がサービス融合部門に異動)

■ サービス機能を融合し、ライフサイクル事業を強化

- ◆ BA、AAの強みであるサービス事業部門を融合するとともに要員を強化。
- ◆ 高い専門性に基づく顧客現場での課題解決提供能力を強化。
- ◆ 社会インフラ(環境・エネルギー)領域へ事業を拡大。

■ 生産性の向上

- ◆ 生産体制を集約し、生産量変動・顧客ニーズ変化への対応力を強化。
- ◆ 生産・販売・スタッフ全部門における業務効率向上と付加価値の内部への取込み。

環境関連市場へ注力する。

- ◆ ESCO事業等、省エネルギー改修工事・サービスにおいて国内随一の豊富な実績とノウハウを活用。
- ◆ 建物から工場、クリティカルな環境までの豊富な商品ラインナップをさらに拡充。

新市場への拡大を図る ～米国BioVigilant Systems社をグループ会社化

- ◆ 同社のユニークなリアルタイム細菌・真菌計測技術を用い新しい事業領域を開拓。

米国BioVigilant Systems社をグループ会社化 ライフサイエンス市場を皮切りに事業領域を拡大



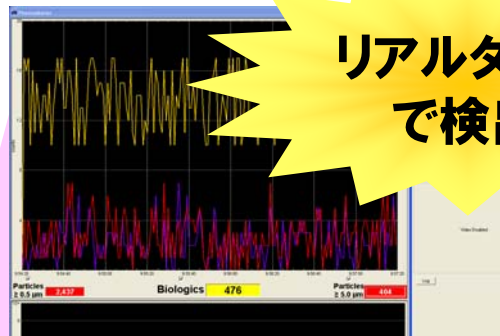
創業1906年 山武の進化
人を中心としたオートメーション

- リアルタイムでの細菌計測を可能にする技術を持つ研究開発型ベンチャー企業BioVigilant Systems社(米国アリゾナ州)をグループ会社化。
- 同社の「リアルタイム細菌センサ」を戦略商品として、伸張が期待されるライフサイエンス(製薬・バイオテクノロジー)市場への拡大を図り、今後更に当社技術・製品との融合により新しい事業領域の開拓に取り組む。

リアルタイム細菌センサ(IMD™)



細胞からの
蛍光を検知

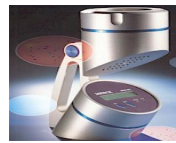


リアルタイム
で検出

業界初

- 細菌・真菌の秒単位でのリアルタイム検出を実現。(無生物粉塵も合わせて計測)
- 3年後に20億円超の売上を目指す。

計測開始
【従来手法】
培養手法



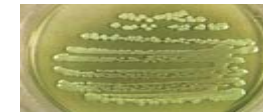
サンプル採取



培地取出し



培養



コロニ数を目視でカウント



数日後に
判明

検出までに数日～1週間

2009年度 連結業績計画

- 2007年度から遂行してきた中期計画「基盤を確たるものにする期」の最終年度として、徹底した体質強化に臨むとともに、事業構造、業務構造の変革を推し進める。2009年度は更に厳しい事業環境が想定されるが、これにより利益確保に努める。

	2008年度 (2009/3期)	2009年度 (2010/3期)				
	通期実績(A)	上期	下期	通期計画(B)	年度比較	
					(B)-(A)	%
売上高	2,362 億円	985 億円	1,190 億円	2,175 億円	△ 187 億円	△ 7.9 %
営業利益	178 億円	25 億円	90 億円	115 億円	△ 63 億円	△ 35.5 %
売上比%	7.6 %	2.5 %	7.6 %	5.3 %		
経常利益	172 億円	24 億円	89 億円	113 億円	△ 59 億円	△ 34.2 %
当期利益	95 億円	5 億円	55 億円	60 億円	△ 35 億円	△ 37.0 %

2009年度 セグメント別業績計画

- BA事業は、大型の新規再開発計画の減少を主因に減収となるが、サービス事業の増収等を背景に営業利益110億円を確保する。
- AA事業は、前下期からの厳しい事業環境が続き、減収を余儀なくされる見込みであるが、一層の事業、業務の体質強化を図り黒字を確保する。
- LA事業では、景気悪化が金門製作所のメータ需要に影響を及ぼし減収となるが、2008年度に着実な進展をみた利益体質改善への取組みを継続、強化する。

	2008年度 (2009/3期)	2009年度 (2010/3期)				
	通期実績(A)	上期	下期	通期計画(B)	年度比較	
					(B)-(A)	%
BA 売上高	1,004 億円	410 億円	560 億円	970 億円	△ 34 億円	△ 3.4 %
営業利益	131 億円	28 億円	82 億円	110 億円	△ 21 億円	△ 15.9 %
売上比%	13.0 %	6.8 %	14.6 %	11.3 %		
AA 売上高	936 億円	380 億円	450 億円	830 億円	△ 106 億円	△ 11.4 %
営業利益	50 億円	△ 5 億円	8 億円	3 億円	△ 47 億円	△ 94.0 %
売上比%	5.3 %	△ 1.3 %	1.8 %	0.4 %		
LA 売上高	359 億円	185 億円	165 億円	350 億円	△ 9 億円	△ 2.6 %
営業利益	△ 2 億円	3 億円	0 億円	3 億円	5 億円	—
売上比%	△ 0.4 %	1.6 %	0.0 %	0.9 %		
その他 売上高	79 億円	20 億円	25 億円	45 億円	△ 34 億円	△ 43.2 %
営業利益	△ 1 億円	0 億円	0 億円	0 億円	1 億円	—
売上比%	△ 0.7 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %		



株主への利益還元

2008年度(2009年3月期)配当計画

2009年度(2010年3月期)配当予想

● **公表通り、
2008年度一株当たり年間配当額62円
を実施する。**

2008年度	(中間)	(期末) 予定	(年間)
	31 円	+ 31 円	= 62 円

- 株主への利益還元重視の方針から、2008年5月期初の公表通り一株当たり年間62円の配当を実施する。

2009年度配当予想

● 厳しい事業環境から利益減少を見込むも、
2009年度一株当たりの年間配当額を62円
とし、配当水準の維持を目指す。

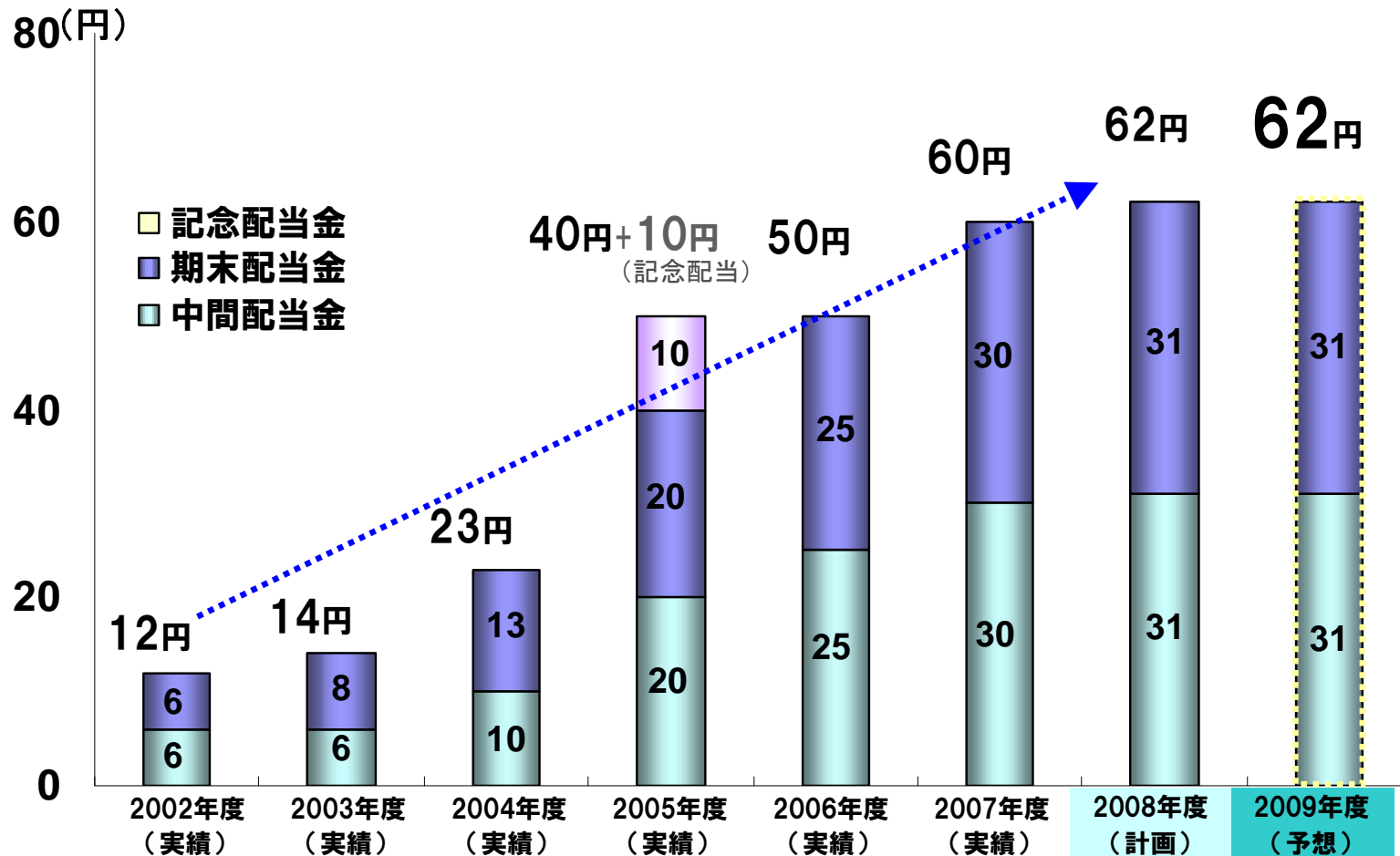
2009年度 (予想)	(中間)	(期末)	(年間)
	31 円	+ 31 円	= 62 円

- 配当金については、連結業績、ROE・DOE※の水準及び将来の事業展開と企業体質強化のための内部留保等を総合的に勘案し決定する。
- 厳しい事業環境下ではあるが、これまで向上に努めてきた株主への利益還元を維持する。
- これにより、2009年度のDOEは3.6%、配当性向は76.3%となる見込み。

※ ROE: 自己資本当期純利益率 DOE:純資産配当率

一株当たり配当額の推移

■ 2003年度より配当水準の向上に継続して取組み、積極的な株主への利益還元を実践。



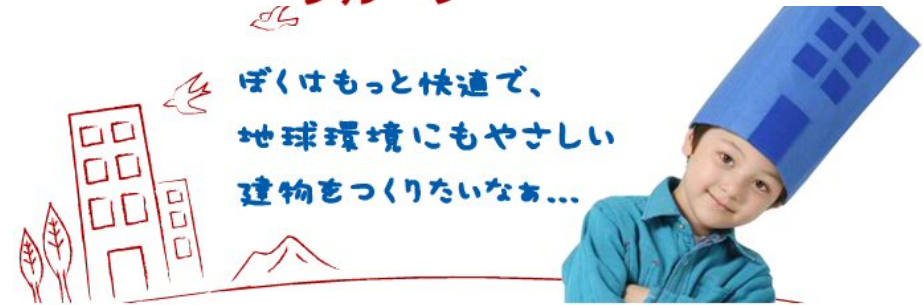
年間配当金	12 円	14 円	23 円	50 円	50 円	60 円	62 円	62 円
純資産配当率	0.9 %	1.1 %	1.7 %	3.5 %	3.2 %	3.7 %	3.7 %	3.6 %
配当性向	16.6 %	31.8 %	45.6 %	37.6 %	34.6 %	41.2 %	48.5 %	76.3 %

その他資料

	2007年度 (2008/3期)	2008年度 (2009/3期)		2009年度 (2010/3期)			
	通期実績 (A)	通期実績 (B)	増減 (B) - (A)	%	通期計画 (C)	増減 (C) - (B)	%
●設備投資							
山武	37 億円	54 億円	17 億円	45.1 %	30 億円	△ 24 億円	△ 44.0 %
連結子会社	8 億円	11 億円	3 億円	32.8 %	10 億円	△ 1 億円	△ 5.2 %
連結	45 億円	64 億円	19 億円	42.9 %	40 億円	△ 24 億円	37.6 %
●減価償却費							
山武	28 億円	31 億円	3 億円	11.9 %	37 億円	6 億円	18.6 %
連結子会社	16 億円	14 億円	△ 2 億円	△ 13.5 %	13 億円	△ 1 億円	△ 5.9 %
連結	44 億円	45 億円	1 億円	2.6 %	50 億円	5 億円	11.0 %
●研究開発費							
売上高比%	98 億円 4.0 %	96 億円 4.1 %	△ 2 億円 △ 2.1 %		95 億円 4.4 %	△ 1 億円 △ 1.4 %	

azbil
グループ

創業1906年 山武の進化
人を中心としたオートメーション

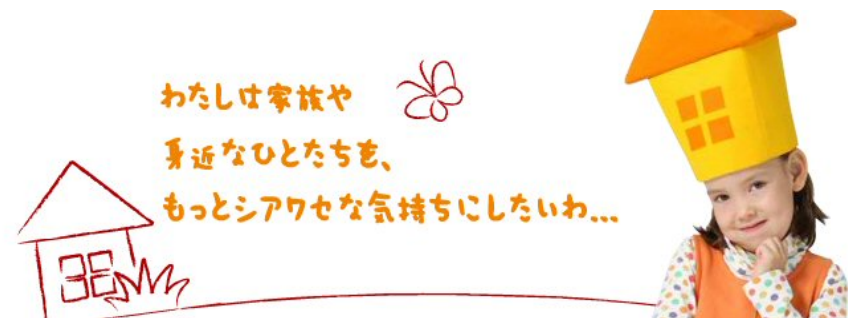


ぼくはもっと快適で、
地球環境にもやさしい
建物をつくりたいなあ...

azbilグループは、
「人を中心としたオートメーション」で、
人々の「安心・快適・達成感」を実現する
とともに、地球環境に貢献します。



ぼくは安全で、
ひとが生き生きと働ける
工場をつくりたいなあ...



わたしは家族や
身近なひとたちを、
もっとシアワセな気持ちにしたいわ...

株式会社 山武